



9

正行寺

松嵐山と号する真宗西派の寺で、開基は守田中務之丞氏利の孫の昌行（法名円海）です。

元禄12（1699）年に本山より寺号木仏を許されました。木造の阿弥陀如来像は室町時代（1500年頃）、恵真と刻銘の梵鐘は宝永8（1712）年に造られました。

また、銀眼による一切経は貴重な文化財であり、現在は北九州市歴史博物館に委託保管中です。



10

中御徳薬師堂

正行寺を東に坂を下れば、薬師如来を祀った「中御徳薬師堂」があります。

昔は小竹地方四国「千人詣り」の札所として賑わいを見せていましたが、現在はそれも廃れています。

風土記附録に旧正行寺跡という記録があります。境内には猿田彦があり、中御徳の玄関口の役割を果たしていました。



11

須賀神社

祭神は、素戔鳴命、稲田姫命。

文政11（1828）年8月の大風で、社殿転倒、翌年再興の記録があります。社殿には「祇園舎」と書かれた鳥居の扁額が納められています。

祭礼には、神楽を上演したり山笠を曳き、奉納したりしていましたが、現在は行われていません。



12

の御徳村開祖墓碑

豊前馬岳主、長野助守の家臣守田中務丞氏利が、元和元年（1615年）から立村の準備をし、元和4（1618）年この地に村を開き御徳村と称しました。

ちなみに、安政4（1857）年に家数84戸、人数377人だったのが、明治元年（1868年）には、家数124戸、人数580人になり時代の変遷が伺えます。



13

安徳天皇供養塔

五輪の塔の表側に安徳天皇七森浩燈、元治元（1864）年10月中と刻記してあります。

この家の先祖は船頭で、遠賀川底の石の祟りで大病になったが、びわ法師の祈祷で治癒したそうです。また、法師は、「安徳天皇七盛法燈」の法要塔建立を伝言しました。しかし、「七盛法燈」を「七森浩燈」と誤り刻んだとの言い伝えがあります。